

2024年12月期第1四半期 決算補足説明資料

2024年5月14日

株式会社HANATOUR JAPAN



東証グロース コード 6561

Executive summary

2024年12月期1Q 前年同期比 62.9%増収 営業利益482.8%増益
第1四半期として過去最高の営業利益452百万円 経常利益432百万円

2024年1-3月 訪日外客数 8,558,100人 ⇒ 2019年比 6.3%増

旅行事業 前年同期比 68%増

1,2月 韓国からの訪日旅行ハイシーズン
3月下旬以降 桜シーズン

FIT（個人旅行者）、団体tour とともに堅調に推移

バス事業 前年同期比 48.9%増

昨年から継続してドライバー採用、国内需要の営業強化

韓国インバウンド需要、桜シーズン 国内需要 とともに堅調に推移

ホテル事業 前年同期比 49.3%増

Tマークシティホテル東京大森・金沢 ADR・稼働率 堅調に推移
札幌・札幌大通 オフシーズンながらも前期以上の営業利益を確保

業績予想 2024年12月期 変更なし 現時点での期末配当額 未定

売上高6,500百万円 営業利益1,300百万円

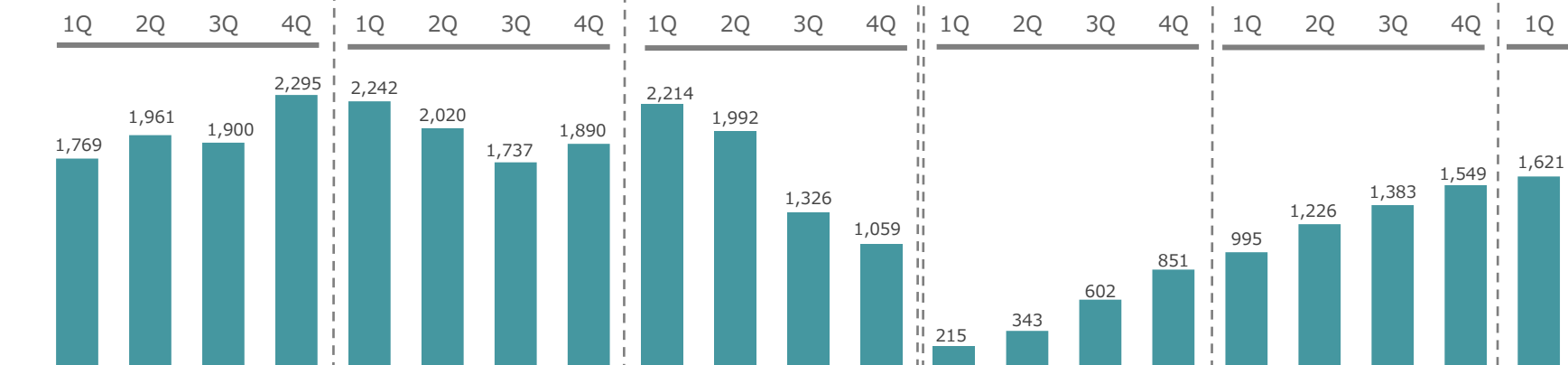
2024年12月期1Q 営業利益 進捗率 34.8%

売上高 営業利益 四半期推移

2024年12月期1Q 順調に回復 営業利益 2017.1Q、2018.1Q を上回る

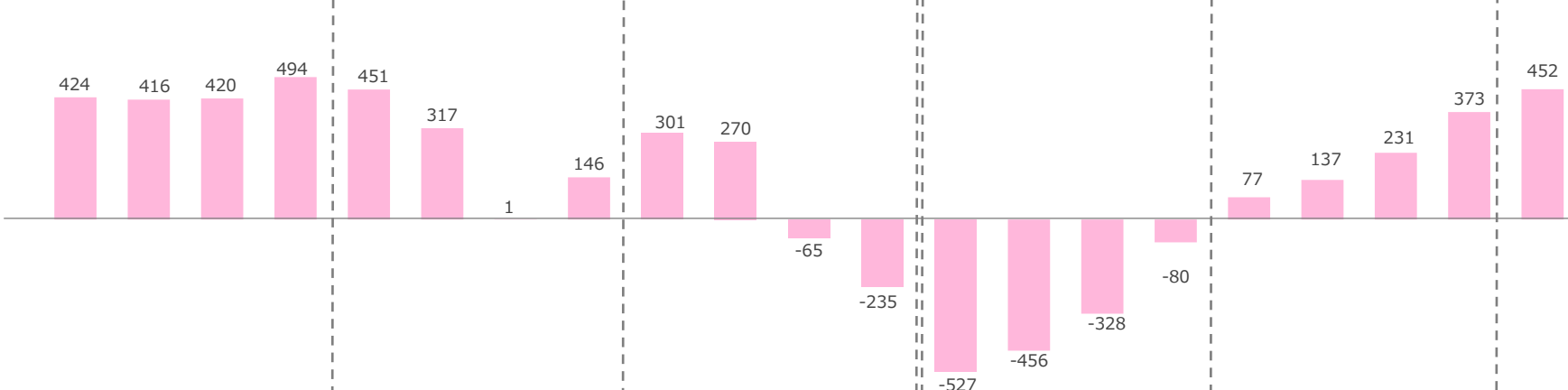
単位：百万円

売上高



コロナ前
2018年対比
72.3%

営業利益



2024.1Q
業績予想 進捗率
34.8%

西日本豪雨等
自然災害の影響

日韓情勢悪化の
影響

2017年

2018年

2019年

2022年

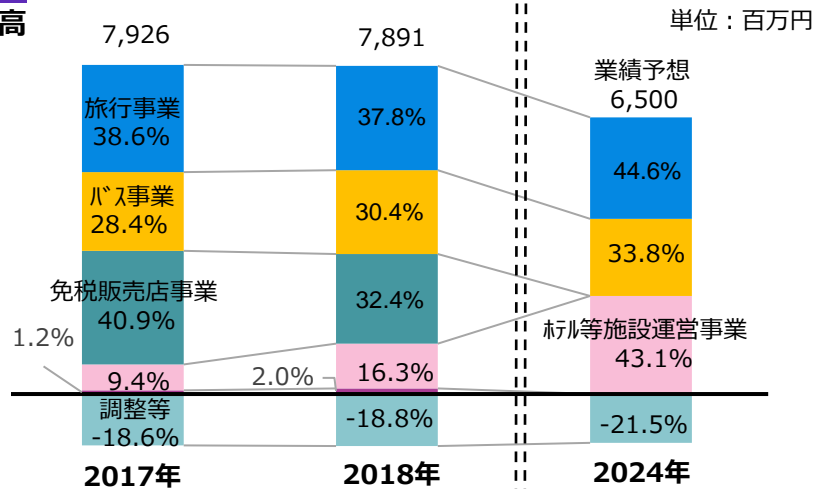
2023年

2024年

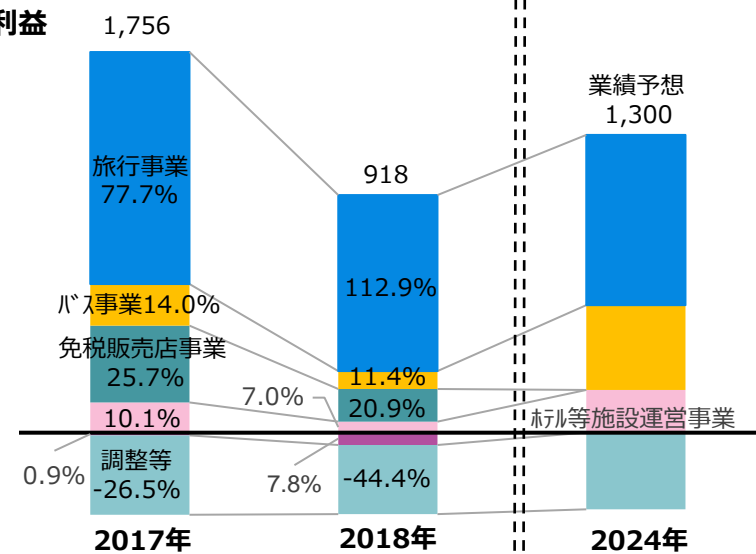
連結 事業セグメント別構成比 推移

収益構造変化 免税店事業廃止 ⇒ 運営ホテルの増加 旅行事業・バス事業の利益率向上にて補完

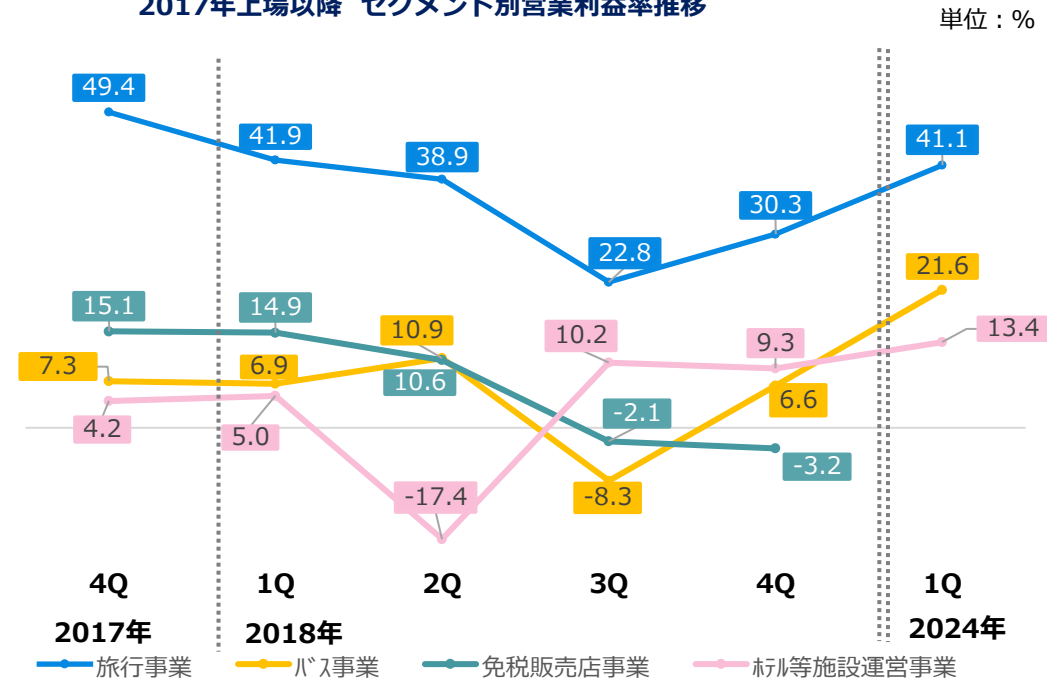
売上高



営業利益



2017年上場以降 セグメント別営業利益率推移



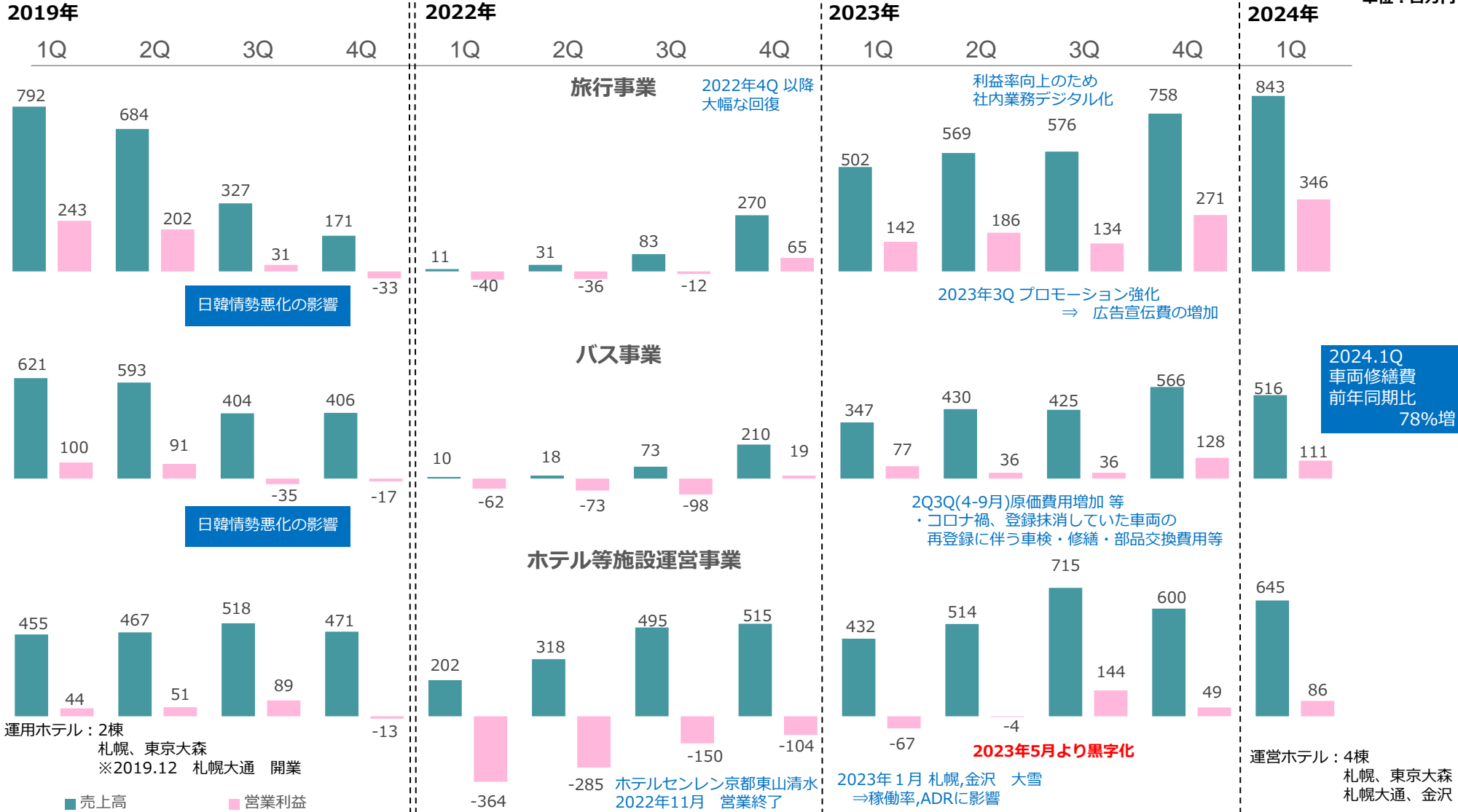
アフターコロナにおける各事業の利益率向上の要因

- ▶ 旅行事業
 - ・ 営業拠点の集中、最適人員数維持などによる人件費・固定経費の圧縮
 - ・ FIT向け収益の向上
- ▶ バス事業
 - ・ リースバックによるバス車両のランニングコスト圧縮
 - ・ 管理部門 最適人員数維持による人件費圧縮
- ▶ ホテル事業
 - ・ 運営ホテル 2棟 (2018年) ⇒ 4棟へ増加

セグメント別 売上高 セグメント利益 四半期推移

2024年12月期1Q 旅行事業・ホテル事業 想定以上の営業利益を達成

単位：百万円

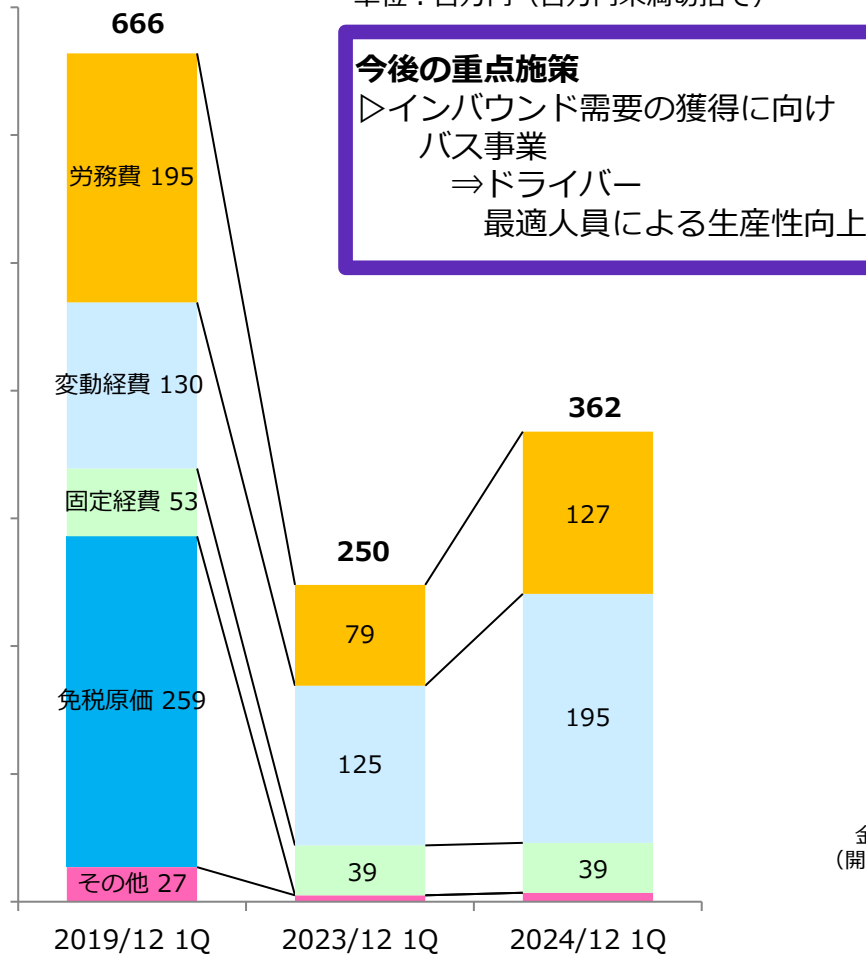


2024年12月期1Q コスト推移

アフターコロナ 最適人員維持・営業拠点の集中 人件費・固定経費圧縮

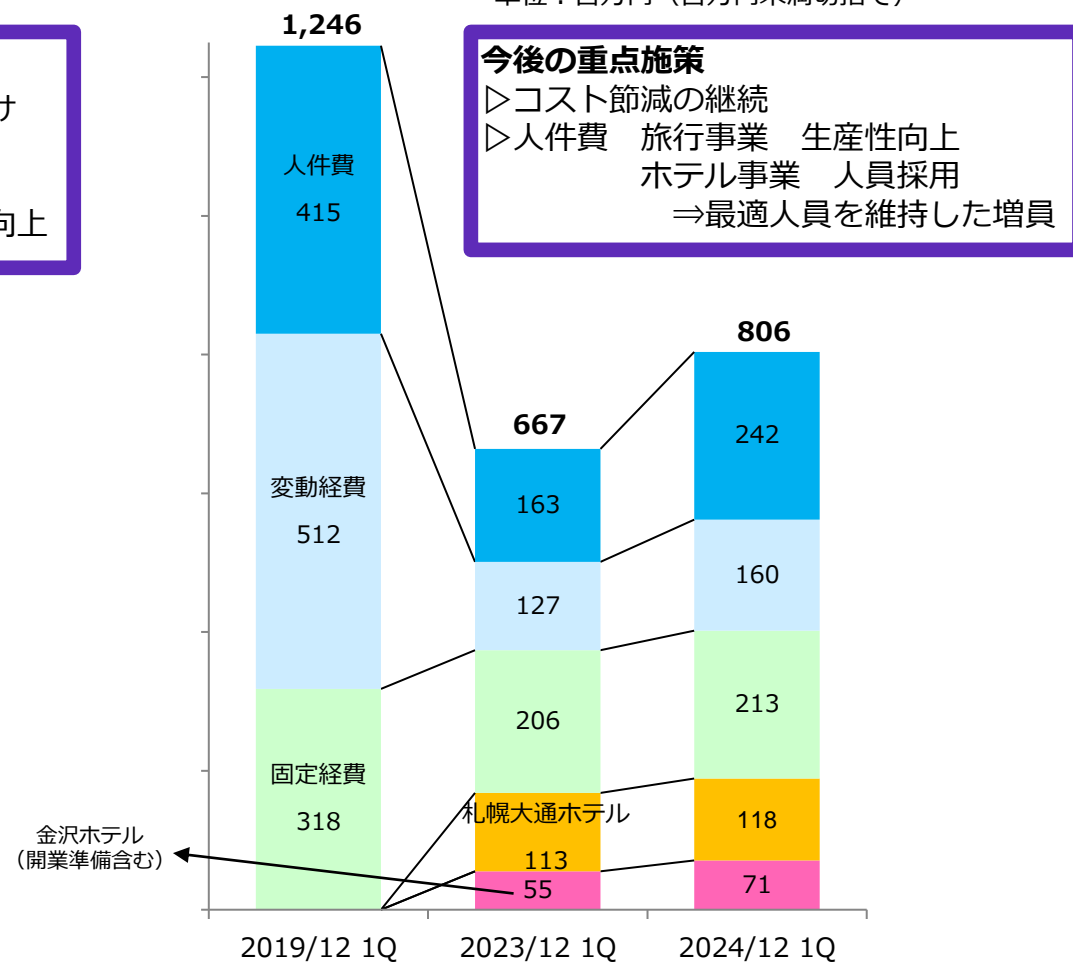
売上原価 3期比較

単位：百万円（百万円未満切捨て）



販管費 3期比較

単位：百万円（百万円未満切捨て）



国際定期便の状況

日韓路線便数 回復

地方空港に残る課題

国際線便数 回復遅延

回復遅延

2019年夏ダイヤ

エリア	空港	韓国	中国	香港	台湾	タイ	その他
北海道	新千歳	●	●	●	●	●	フィリピン、米国 他
	旭川				●		
	函館				●		
東北	青森	●					
	仙台	●			●		
	花巻		●		●		
	新潟	●	●		●		
関東	成田	●	●	●	●	●	世界各国
	羽田	●	●	●	●	●	世界各国
	福島						
東海	茨城	●	●		●		
	静岡	●	●		●		
	中部	●	●	●	●	●	インドネシア、シンガポール、米国 他
北陸	富山	●	●		●		
	小松	●	●	●	●		
近畿	関西	●	●	●	●	●	世界各国
中国	岡山	●	●	●	●		
	広島	●	●	●	●		シンガポール
	米子	●		●			
四国	高松	●	●	●	●		
	松山	●	●				
	山口						
九州	福岡	●	●	●	●	●	シンガポール、フィリピン 他
	北九州	●			●		
	長崎		●	●			
	佐賀	●	●				
	宮崎	●			●		
	鹿児島	●	●	●	●		
	大分	●					
沖縄	那覇	●	●	●	●	●	シンガポール
	下地島						
	新石垣			●	●		

2024年夏ダイヤ

エリア	空港	韓国	中国	香港	台湾	タイ	その他
北海道	新千歳	●	●	●	●	●	マレーシア、シンガポール
	旭川						
	函館				●		
東北	青森	●					
	仙台	●	●		●		
	花巻				●		
	新潟	●	●		●		
関東	成田	●	●	●	●	●	世界各国
	羽田	●	●	●	●	●	世界各国
	福島				●		
東海	茨城				●		
	静岡	●	●				
	中部	●	●	●	●	●	シンガポール、米国 他
北陸	富山		●				
	小松	●	●		●		
近畿	関西	●	●	●	●	●	世界各国
中国	岡山	●	●		●		
	広島	●	●		●		ベトナム
	米子	●					
四国	高松	●	●	●	●		
	松山	●			●		
	山口						
九州	福岡	●	●	●	●	●	シンガポール、フィリピン 他
	北九州	●					
	長崎		●				
	佐賀	●	●			●	
	宮崎	●					
	鹿児島	●		●			
	大分	●					
沖縄	那覇	●	●	●	●	●	シンガポール
	下地島						
	新石垣						

⇒主要空港

国際線便数回復割合

19年夏対比(全体)	93.2%	73.1%	91.2%	99.1%	83.9%
19年夏対比(主要空港)	96.2%	74.4%	95.9%	101.3%	83.9%
19年夏対比(地方空港)	66.9%	54.4%	38.2%	85.4%	—

⇒19年比未再開路線

出典：国土交通省「国際線就航状況」をもとに当社作成

主要空港である那覇は、国際線回復は約6割。

2024年12月期1Q 実績Summary

2024年12月期1Q 前年同期比62.9%増収

単位：百万円（百万円未満切捨て）、%

	2023/12		2024/12 前期比			
	1Q	構成比	1Q	差額	増減率	構成比
売上高	995	100.0	1,621	626	62.9	100.0
営業利益	77	7.8	452	374	482.8	27.9
経常利益	59	5.9	432	373	633.0	26.7
親会社株主に帰属する 当期純利益	394	39.6	398	3	0.9	24.6
1株当たり当期純利益(円)	31.46		31.75			
自己資本	1,019		2,248			

2024年12月期1Q 損益計算書

各事業 稼働増加 人件費 変動経費 増加

単位：百万円（百万円未満切捨て）、%

	2023/12		2024/12 前期比			
	1Q	構成比	1Q	増減	伸率	構成比
売上高	995	100.0	1,621	626	62.9	100.0
売上原価	250	25.1	362	112	44.9	22.4
売上総利益	744	74.8	1,258	514	69.0	77.6
販管費	667	67.0	806	139	20.9	49.7
うち人件費	194	19.5	275	80	41.8	17.0
営業利益	77	7.8	452	374	482.8	27.9
経常利益	59	5.9	432	373	633.0	26.7
親会社株主に帰属 当期純利益	394	39.6	398	3	0.9	24.6

売上原価

- ・バス事業：+104百万円
- ・ホテル事業：+14百万円

販管費

- ・旅行事業：+45百万円
- ・バス事業：+30百万円
- ・ホテル事業：+44百万円
- ▷稼働率増加による
変動経費増+36百万円
- ・調整他：+18百万円

営業外損益

- ・コロナ等助成金
▷前期：15百万円
- ・為替差損益
▷前期：△11百万円
▷当期：+1百万円

税金費用

- ・法人税等調整額(益)
▷前期：335百万円
▷当期：△37百万円

2024年12月期1Q セグメント別

単位：百万円（百万円未満切捨て）、%

		2023/12 1Q	2024/12 1Q	前期比		
				増減	伸率	構成比
旅行事業	売上高 セグメント利益 利益率	502 142 28.4	843 346 41.1	341 203 -	68.0 143.0 -	52.0 76.6 -
バス事業	売上高 セグメント利益 利益率	347 77 22.2	516 111 21.6	169 34 -	48.9 44.9 -	31.9 24.7 -
ホテル等施設運営事業	売上高 セグメント利益 利益率	432 △67 -	645 86 13.4	213 153 -	49.3 - -	39.8 19.2 -
その他	売上高 セグメント利益 利益率	8 △1 -	14 3 22.8	6 4 -	77.3 - -	0.9 0.7 -
小計	売上高 セグメント利益 利益率	1,290 151 11.8	2,021 548 27.1	731 397 -	56.7 261.2 -	124.7 121.2 -
調整等	売上高 セグメント利益 利益率	△295 △74 -	△400 △96 -	△104 △21 -	35.6 - -	△24.7 △21.2 -
合計	売上高 営業利益 利益率	995 77 7.8	1,621 452 27.9	626 374 -	62.9 482.8 -	100.0 100.0 -

2024年12月期 業績予想

■ 期初予想から変更なし

■ 現時点での期末配当額は未定

単位：百万円（百万円未満切捨て）、%

	2023/12		2024/12 前期比			
		構成比	予想	増減	伸率	構成比
売上高	5,154	100.0	6,500	1,345	26.1	100.0
営業利益	819	15.9	1,300	480	58.6	20.0
経常利益	766	14.9	1,150	383	50.0	17.7
親会社株主に帰属する 当期純利益	1,221	23.7	1,140	△ 81	△ 6.7	17.5
1株当たり当期純利益	97.32		90.80			

2024年12月期 今後の重点施策

営業基盤の強化

経営効率化

需要獲得・事業拡大への取組

旅行事業

- ▶ 営業拠点の選択と集中
東京本社・九州営業所・北海道営業所
韓国営業所・インドネシア事務所
⇒ 国内外新拠点の開設検討
- ▶ 人員最適化
及び業務デジタル化による生産性向上

- ▶ インバウンド需要獲得に向けた取組み
 - ホテル、旅ナカ商材等 仕入強化
 - 海外AGTへの営業強化
- ▶ FIT（個人旅行者）向け
新プラットフォームの開発推進

バス事業

- ▶ 営業拠点：東京・大阪・北海道・福岡
⇒ 人員最適化
及び業務デジタル化による生産性向上

- ▶ 国内AGTへの営業強化
- ▶ 国際便クルーなど送迎事業の拡大
- ▶ 各事業所 ドライバー増員

ホテル等
施設
運営事業

- ▶ 運営ホテル
「Tマークシティホテル」ブランド 4棟
- バンニューマネジメントによるADR・稼働率向上
- 人員最適化による生産性向上
- ランニングコストの見直し

- ▶ 国内・インバウンド・FIT需要獲得に向けた取組み
 - 国内旅行エージェント・OTAへの営業強化
 - 海外旅行エージェントへの営業強化
 - グローバルOTA対応強化

財務体質の改善

生産性 利益率の向上
余剰資金 → 早期弁済へ

- ▶ 自己資本比率の向上
- ▶ DEレシオの改善

ディスクレームー

- 本書には、当社に関連する見通し、将来に関する計画、経営目標などが記載されています。これらの将来の見通しに関する記述は、将来の事象や動向に関する現時点での仮定に基づくものであり、当該仮定が必ずしも正確であるという保証はありません。様々な要因により実際の業績が本書の記載と著しく異なる可能性があります。
- 別段の記載がない限り、本書に記載されている財務データは日本において一般に認められている会計原則に従って表示されています。
- 当社は、将来の事象などの発生にかかわらず、既に行っております今後の見通しに関する発表等につき、開示規則により求められる場合を除き、必ずしも修正するとは限りません。
- 当社以外の会社に関する情報は、一般に公知の情報に依拠しています。

【お問い合わせ先】

株式会社HANATOUR JAPAN

経営管理部

TEL 03-6629-4755

ホームページ <http://www.hanatourjapan.jp/>